

総事業費	513	千円
交付金額	256	千円

地域の実情と課題

本市においては、市内に本社機能を置く9割以上の企業が中小企業であり、これまで規模的にも企業単体で女性活躍の取組を行うのが困難な状況にあった。

これを踏まえ本市では、まず事業者及び各種団体のネットワーク構築を図るとともに、女性活躍の啓発につながるイベント等を開催するなど事業者や市民の意識啓発を図ってきた。

また庁内の動きとしては、平成28年度には女性自身の声を施策につなげることを目的として「あかし女性の活躍推進会議」を設置するとともに、令和3年度には更なる施策提案のため、庁内横断的に「ジェンダー平等プロジェクトチーム」を設置した。現在は、これらの会議等からの提言書や報告書に沿って、取組を加速させているところである。

事業の特徴

女性活躍の推進を目的として、多様な主体によるネットワーク組織「あかし女性応援ねっと」を立ち上げ。活動を促進することで、市内の企業や団体における女性活躍推進の機運を高める。

具体的には、交流会を開催するなど会員間のネットワークを深める機会を提供するとともに、新規会員の獲得にもつなげる。

事業の効果

「あかし女性応援ねっと」の加入者数を増やすことができた。

団体加入数 67団体(+3団体)
個人加入者数 103名 (+14名)

目的・目標

「あかし女性応援ねっと」の加入者数を増やすことで、会員同士のネットワークを広げ、深めることを目的とする。

目標値:あかし女性応援ねっと加入者数
団体加入数 80、個人加入者100名

連携団体

あかし女性応援ねっと
ハローワーク明石

今後の課題

交流会などのイベントに、さらに幅広い年代や多様な分野・業種の参加を促すため、魅力的なコンテンツを導入するとともに、オンライン参加を可能としたり、より効果的な工法を実施したりするなど、参加者を増やすための工夫が必要。。

事業の概要

2023年度 あかし女性応援イベント

ジェンダー平等推進の

取組み紹介

**&
異業種 交流**

・ 情報交換会



取組み紹介

豊岡市ジェンダーギャップ対策室長

上田 篤さん

男だから女だからを超えて
「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」で
見えてきたもの

若者が帰って(入って)こない、とりわけ若い女性が帰ってこない事実に向き合い、在住する若者だけでなく、故郷を離れた若者へもヒアリングを実施した豊岡市。

選ばれるまち、帰ってくるまちになるためには、ジェンダーギャップ解消の取組みが必要だと、全国に先駆けて様々な取組みをはじめられました。

職場から、まち全体へ、市民参加型で多様な意見を取り入れながら、過去を否定するのではなく、急激な変化に対応することを大切にしながら取組みを進めておられます。



異業種交流・意見交換会



事例紹介での取組みを踏まえ、明石市での課題やそれぞれの環境にある課題をグループに分かれて出し合いました。

様々な分野で活躍する方との意見交換により、これまで意識していなかったことを、自分ごととして捉える大切さを実感する機会となり、たくさんの気づきがうまれました。

2023年度 あかし女性応援講演会

**あかし
女性応援メッセ**

女性も 男性も 自分らしく生きる！

開催日時 2024年2月18日(日) 13:00~17:00

会場 複合型交流拠点ウイズあかし フリースペース

参加者数 【トークイベント】 53名 【ブース来場】 のべ94名

トークイベント (14:00 ~ 16:15)

13:00~ ブース OPEN

14:00~ トークイベント開会
【トークセッション】

15:30~ 【トークサロン】 交換会

トークセッション (14:10 ~ 15:30)

生き方は自分で選ぶ

～ジェンダーを男性の視点から考える～



■ 片田 孫 朝日 さん
(灘中学・高等学校 公民科教諭)

子育て真っ最中の二人のトークゲストに、世代間ギャップや男性の生き方・働き方の選択についてトークセッションしていただきました。



■ 竹端 寛 さん
(兵庫県立大学環境人間学部 准教授)

トークサロン (15:30 ~ 16:15)



オトコの本音サロン

トークゲストと参加者がテーブルを囲み、3つのグループにわかれて日頃抱えるホッネを出し合う時間となりました。



オンナの本音サロン



みんなで交流サロン

ブース出展 (13:00 ~ 17:00)

子育てで支援に関する制度紹介や健康相談、



ハンドセラピーなど、行政や関係団体、あかし女性応援ねっと会員による9つのブースが出展しました。

